

○奈良県食品衛生法施行条例

平成十二年三月三十日

奈良県条例第三十八号

奈良県食品衛生法施行条例をここに公布する。

奈良県食品衛生法施行条例

(趣旨)

第一条 この条例は、食品衛生法(昭和二十二年法律第二百三十三号。以下「法」という。)及び食品衛生法施行令(昭和二十八年政令第二百二十九号。以下「令」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(平二四条例四四・一部改正)

(食品衛生検査施設の設備の基準等)

第二条 令第八条第一項の規定により食品衛生検査施設の設備について条例で定める基準は、次のとおりとする。

- 一 理化学検査室、微生物検査室、動物飼育室及び事務室を設けること。
 - 二 純水装置、定温乾燥機、ディープフリーザー、電気炉、ガスクロマトグラフ、分光光度計、高圧滅菌器、乾熱滅菌器、恒温培養器、嫌気培養装置、恒温槽その他の検査又は試験のために必要な機械及び器具を備えること。
- 2 令第八条第一項の規定により食品衛生検査施設の職員の配置について条例で定める基準は、検査又は試験のために必要な職員を置くこととする。
- 3 法第二十六条第一項の規定による検査を受けようとする者は、奈良県保健研究センター及び奈良県景観・環境総合センター手数料条例(昭和三十五年四月奈良県条例第十五号)で定めるところにより、手数料を納めなければならない。

(平一四条例三五・平一六条例二二・平二四条例四四・平二五条例五五・一部改正)

(営業施設基準)

第三条 法第五十四条の規定による基準は、令第三十五条各号に掲げる営業(同条第二号及び同条第六号の営業を除く。)に共通する事項については別表第一、同条各号に掲げる営業ごとの事項については別表第二、法第十三条第一項の規定により定められた基準又は規格に適合する生食用食肉又はふぐを取り扱う営業に係る事項については別表第一及び別表第二の基準に加え、別表第三のとおりとする。

(令三条例三九・全改)

(その他)

第四条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(令二条例四六・旧第五条繰上)

附 則

この条例は、平成十二年四月一日から施行する。

別表第一(第三条関係)

(令三条例三九・追加)

- 一 施設は、屋外からの汚染を防止し、衛生的な作業を継続的に実施するために必要な構造又は設備、機械器具の配置及び食品又は添加物を取り扱う量に応じた十分な広さを有すること。
- 二 食品若しくは添加物又は容器包装、機械器具その他食品若しくは添加物に接触するおそれのあるもの(以下「食品等」という。)への汚染を考慮し、公衆衛生上の危害の発生を防止するため、作業区分に応じて間仕切り等により必要な区画がされ、工程を踏まえて施設設備が適切に配置され、又は空気の流れを管理する設備が設置されていること。ただし、作業における食品等又は従業者の経路の設定、同一区画を異なる作業で交替に使用する場合の適切な洗浄又は消毒の実施等により、必要な衛生管理措置が講じられている場合は、この限りでない。
- 三 住居その他食品等を取り扱うことを目的としない室又は場所が同一の建物にある場合は、それらと区画されていること。
- 四 施設の構造及び設備
 - ア ほこり、廃水及び廃棄物による汚染を防止できる構造又は設備並びにねずみ、昆虫等の侵入を防止できる設備を有すること。
 - イ 食品等を取り扱う作業をする場所の真上は、結露しにくく、結露によるかびの発生を防止し、及び結露による水滴により食品等を汚染しないよう換気が適切にできる構造又は設備を有すること。
 - ウ 床面、内壁及び天井は、清掃、洗浄及び消毒(以下「清掃等」という。)を容易に行うことができる材料で作られ、清掃等を容易に行うことができる構造であること。
 - エ 床面及び内壁の清掃等に水を使用する施設にあつては、床面は不浸透性の材料で作られ、排水が良好であり、内壁は床面から容易に汚染される高さまで、不浸透性の材料で腰張りされていること。
 - オ 照明設備は、作業、検査及び清掃等を十分にすることができるよう必要な照度を確保できる機能を備えること。

カ 給水設備は、次の要件を満たすこと。

- (1) 水道法(昭和三十二年法律第七十七号)第三条第二項に規定する水道事業、同条第六項に規定する専用水道若しくは同条第七項に規定する簡易専用水道(以下「水道事業等」という。)により供給される水又は飲用に適する水を施設の必要な場所に適切な温度で十分に供給することができる機能を有すること。
- (2) 水道事業等により供給される水以外の水を使用する場合は、必要に応じて消毒装置及び浄水装置を備え、水源は外部から汚染されない構造を有すること。
- (3) 貯水槽を使用する場合にあっては、食品衛生上支障のない構造であること。
- (4) 法第十三条第一項の規定により定められた基準又は規格に食品製造用水の使用について定めがある食品を取り扱う営業にあっては(1)中「飲用に適する水」とあるのは「食品製造用水」とし、当該基準又は規格に食品製造用水又は殺菌した海水の使用について定めがある食品を取り扱う営業にあっては(1)中「飲用に適する水」とあるのは「食品製造用水若しくは殺菌した海水」とすること。

キ 従業者の手指の洗浄及び消毒をする装置を備えた流水式手洗い設備を必要な個数有することとし、当該設備の水栓は、洗浄後の手指の再汚染が防止できる構造であること。

ク 排水設備は、次の要件を満たすこと。

- (1) 十分な排水機能を有し、かつ、水で洗浄をする区画及び廃水、液性の廃棄物等が流れる区画の床面に設置されていること。
- (2) 汚水の逆流により食品又は添加物を汚染しないよう配管され、かつ、施設外に適切に排出できる機能を有すること。
- (3) 配管は、十分な容量を有し、かつ、適切な位置に配置されていること。

ケ 食品又は添加物を衛生的に取り扱うために必要な機能を有する冷蔵又は冷凍設備を必要に応じて有すること。この場合において、法第十三条第一項の規定により定められた基準又は規格に製造及び保存の際の冷蔵又は冷凍について定めがある食品を取り扱う営業にあっては、その定めに従い必要な設備を有すること。

コ 必要に応じてねずみ、昆虫等が侵入した際に駆除するための設備を有すること。

サ 次に掲げる要件を満たす便所を従業者の数に応じて有すること。

- (1) 作業場に汚染の影響を及ぼさない構造であること。
- (2) 専用の流水式手洗い設備を有すること。

シ 原材料を種類及び特性に応じた温度で、汚染の防止可能な状態で保管することがで

きる十分な規模の設備を有すること。

ス 施設で使用する洗浄剤、殺菌剤等の薬剤を、食品等と区分して保管する設備を有すること。

セ 次に掲げる要件を満たす廃棄物を入れる容器又は廃棄物を保管する設備を有すること。

- (1) 不浸透性の材料で作られていること。
- (2) 十分な容量を備えていること。
- (3) 清掃がしやすいこと。
- (4) 汚液及び汚臭が漏れない構造であること。

ソ 製品の包装をする施設にあつては、製品を衛生的に容器包装に入れることができる場所を有すること。

タ 更衣場所は、従事者の数に応じた十分な広さがあり、及び作業場への出入りが容易な位置に配置すること。

チ 食品等の洗浄をするため、必要に応じて熱湯、蒸気等を供給できる使用目的に応じた大きさ及び数の洗浄設備を有すること。

ツ 添加物の使用をする施設にあつては、それを専用で保管することができる設備又は場所及び計量器を備えること。

五 機械器具

ア 食品若しくは添加物の製造又は食品の調理をする作業場の機械器具、容器その他の設備(以下「機械器具等」という。)は、適正に洗浄、保守及び点検をすることができる構造であること。

イ 作業に応じた機械器具等を備えること。

ウ 食品又は添加物に直接触れる機械器具等は、耐水性の材料で作られ、洗浄が容易であり、及び熱湯、蒸気又は殺菌剤で消毒が可能なものであること。

エ 固定され、又は移動し難い機械器具等は、作業に便利であり、かつ、清掃及び洗浄をしやすい位置に配置すること。

オ 組立式の機械器具等にあつては、分解及び清掃をしやすい構造であり、必要に応じて洗浄及び消毒が可能な構造であること。

カ 食品又は添加物の運搬をする場合にあつては、汚染を防止できる専用の容器を備えること。

キ 冷蔵、冷凍、殺菌、加熱等を行う設備には、温度計を備え、必要に応じて圧力計、

流量計その他の計量器を備えること。

ク 作業場の清掃等をするための専用の用具を必要数備え、その保管場所及びその作業内容を掲示するための設備を有すること。

六 その他

ア 令第三十五条第一号に規定する飲食店営業にあつては、第四号ソの基準を適用しない。

イ 令第三十五条第一号に規定する飲食店営業で簡易な営業(そのままの状態に飲食に供することができる食品を食器に盛る、そうざいの半製品を加熱する等の簡易な調理のみをする営業をいい、喫茶店営業(喫茶店、サロンその他設備を設けて酒類以外の飲物又は茶菓を客に飲食させる営業をいう。)を含む。以下同じ。)をする場合にあつては、アの規定によるほか、次に定める基準により営業をすることができる。

(1) 床面及び内壁は、取り扱う食品及び営業の形態を踏まえ、食品衛生上支障がないと認められる場合は、不浸透性の材料以外の材料を使用することができる。

(2) 排水設備は、取り扱う食品及び営業の形態を踏まえ、食品衛生上支障がないと認められる場合は、床面に有しないこととすることができる。

(3) 冷蔵又は冷凍設備は、取り扱う食品及び営業の形態を踏まえ、食品衛生上支障がないと認められる場合は、施設外に有することとすることができる。

(4) 食品を取り扱う区域は、従業者以外の者が容易に立ち入ることのできない構造である場合は、区画されていることを要しないこととすることができる。

ウ 令第三十五条第一号に規定する飲食店営業で自動車において調理をする場合にあつては、第四号エ、ク、サ及びタの基準を適用しない。

エ 令第三十五条第一号に規定する飲食店営業で露店形態の営業をする場合にあつては、規則で定める要件を満たすこと。

オ 令第三十五条第九号に規定する食肉処理業で自動車において生体又はとたいの処理をする場合にあつては、第四号サ、シ、ス及びタ並びに前号カの基準を適用しない。

カ 令第三十五条第二十七号及び第二十八号に掲げる営業以外の営業で冷凍食品の製造をする場合にあつては、第一号から前号までに掲げるものに加え、次に掲げる要件を満たす構造であること。

(1) 原材料の保管及び前処理並びに製品の製造、冷凍、包装及び保管をするための室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあつては、作業区分に応じて区画されていること。

- (2) 原材料の保管をする室又は場所に、冷蔵又は冷凍設備を有すること。
- (3) 製品の製造をする室又は場所は、製造をする品目に応じて、加熱、殺菌、放冷及び冷却に必要な設備を有すること。
- (4) 製品が摂氏マイナス十五度以下となるよう管理することができる機能を備える冷凍室及び保管室を有すること。

キ 令第三十五条第三十号に掲げる営業以外の営業で密封包装食品の製造をする場合にあっては、第一号から前号までに掲げるものに加え、次に掲げる要件を満たす構造であること。

- (1) 原材料の保管及び前処理又は調合並びに製品の製造及び保管をするための室又は場所を有し、必要に応じて容器包装洗浄設備を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。
- (2) 原材料の保管をする室又は場所に、冷蔵又は冷凍設備を有すること。
- (3) 製品の製造をする室又は場所は、製造をする品目に応じて、解凍、加熱、充填、密封、殺菌及び冷却に必要な設備を有すること。

ク ウ及びオの規定による場合を除くほか、自動車を利用して営業をする場合にあっては、規則で定める要件を満たすこと。

別表第二(第三条関係)

(令三条例三九・追加)

一 令第三十五条第一号に規定する飲食店営業

自動車において調理をする場合は、次に掲げる営業の区分に応じ、一日の営業においてそれぞれに定める量の水を供給し、かつ、排水を保管することができる貯水設備を有すること。

ア 簡易な営業 約四十リットル

イ 大量の水を要しない営業 約八十リットル

ウ 大量の水を要する営業 約二百リットル

二 令第三十五条第二号に規定する調理の機能を有する自動販売機(屋内に設置され、かつ、容器包装に入れられず、又は容器包装で包まれない状態の食品に直接接触する部分を自動的に洗浄するための装置その他の食品衛生上の危害の発生を防止するために必要な装置を有するものを除く。)により食品を調理し、調理された食品を販売する営業

ア ひさし、屋根等の雨水を防止できる設備を有すること。ただし、雨水による影響を受けないと認められる場所に自動販売機を設置する場合にあっては、この限りでない。

イ 床面は、清掃等が容易な不浸透性の材料で作られていること。

三 令第三十五条第三号に規定する食肉販売業

ア 処理室を有すること。

イ 処理室に解体された鳥獣の肉、内臓等を分割するために必要な設備を有すること。

ウ 製品が冷蔵保存を要する場合にあっては製品が摂氏十度以下となるよう、冷凍保存を要する場合にあっては製品が摂氏マイナス十五度以下となるよう管理することができる機能を備える冷蔵又は冷凍設備を処理量に応じた規模で有すること。

エ 不可食部分を入れるための容器及び廃棄に使用するための容器は、次に掲げる要件を満たす構造であること。

- (1) 不浸透性の材料で作られていること。
- (2) 処理量に応じた容量を有していること。
- (3) 消毒が容易であること。
- (4) 汚液及び汚臭が漏れないこと。
- (5) 蓋を備えていること。

四 令第三十五条第四号に規定する魚介類販売業

ア 原材料の保管及び処理並びに製品の包装及び保管をする室又は場所を有すること。
なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 原材料の処理をする室又は場所は、鮮魚介類の処理に必要な設備等を有すること。

ウ 生食用の鮮魚介類を取り扱う施設は、生食用の鮮魚介類の処理をするための専用の器具を備えること。

エ かきの処理をする場合は、次に掲げる要件を満たすこと。

- (1) 必要に応じて浄化設備を有すること。
- (2) かきの前処理をする室又は場所は、殻付きかきの洗浄に必要な設備を有すること。
- (3) かきの処理をする室又は場所は、むき身の処理、洗浄及び包装に必要な設備を有すること。

五 令第三十五条第五号に規定する魚介類競り売り営業

ア 鮮魚介類の入荷、荷分け、陳列、一時保管、取引及び出荷をする場所を有し、必要に応じて区画されていること。

イ 必要に応じて冷蔵又は冷凍設備、製氷設備並びに靴の洗浄及び消毒をする設備を有すること。

ウ 海水を用いて鮮魚介類の洗浄及び冷却をする場合は、必要に応じて海水の殺菌設備を有すること。

六 令第三十五条第六号に規定する集乳業

ア 生乳の貯蔵設備及び受入検査設備を有すること。ただし、検査を外部に委託する施設にあっては、受入検査設備を有することを要しない。

イ 生乳の取扱量に応じた冷却器又は冷蔵保管設備を有すること。

七 令第三十五条第七号に規定する乳処理業

ア 生乳の受入検査、貯蔵及び処理並びに製品の保管をする室又は場所を有し、必要に応じて洗瓶をする室又は場所及び容器洗浄設備を有すること。ただし、生乳を使用しない施設にあっては受入検査及び貯蔵をする室又は場所を、検査を外部に委託する施設にあっては受入検査をする室又は場所を有することを要しない。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 生乳の処理をする室又は場所は、ろ過、殺菌、充填及び密栓に必要な設備を有すること。なお、生乳の殺菌をする場合は、自記温度計を付けた殺菌設備を有すること。

ウ 製品が摂氏十度以下となるよう管理することができる機能を備える冷却器及び冷蔵設備を処理量又は製造量に応じた規模で有すること。ただし、常温保存可能品のみを製造する施設は、この限りでない。

エ 生乳の受入検査をする室又は場所は、生乳の検査をするために必要な設備を有すること。

八 令第三十五条第八号に規定する特別牛乳搾取処理業

ア 搾乳、生乳の処理及び製品の保管をする室又は場所並びに牛体洗浄設備並びに生乳の貯蔵設備及び受入検査設備を有し、必要に応じて洗瓶をする室又は場所を有すること。ただし、検査を外部に委託する施設にあっては、受入検査設備を有することを要しない。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 生乳の処理をする室又は場所は、ろ過、殺菌、充填及び密栓に必要な設備を有すること。なお、生乳の殺菌をする場合は、自記温度計を付けた殺菌設備を有すること。

ウ 製品が摂氏十度以下となるよう管理することができる機能を備える冷却器及び冷蔵設備を処理量に応じて有すること。

九 令第三十五条第九号に規定する食肉処理業

ア 原材料の荷受及び処理並びに製品の保管をする室又は場所を有すること。なお、室

を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 不可食部分を入れるための容器及び廃棄に使用するための容器は、次に掲げる要件を満たす構造であること。

- (1) 不浸透性の材料で作られていること。
- (2) 処理量に応じた容量を有していること。
- (3) 消毒が容易であること。
- (4) 汚液及び汚臭が漏れないこと。
- (5) 蓋を備えていること。

ウ 製品が冷蔵保存を要する場合にあっては製品が摂氏十度以下となるよう、冷凍保存を要する場合にあっては製品が摂氏マイナス十五度以下となるよう管理することができる機能を備える冷蔵又は冷凍設備を処理量に応じて有すること。

エ 処理室は、解体された獣畜又は食鳥の肉、内臓等を分割するために必要な設備を有すること。

オ 生体又はとたいを処理する場合にあっては、次に掲げる要件を満たすこと。

- (1) とさつ放血室(とさつ及び放血をする場合に限る。)及び剥皮をする場所並びに剥皮前のとたいの洗浄をする設備を有すること。
- (2) 必要に応じて懸ちょう室、脱羽をする場所及び羽毛、皮、骨等を置く場所を有し、処理前の生体又はとたい、処理後の食肉等の搬入及び搬出をする場所が区画されていること。
- (3) 剥皮をする場所は、懸ちょう設備並びに従事者の手指及びナイフ等の器具の洗浄及び消毒設備を有すること。
- (4) 懸ちょう室は、他の作業場所から隔壁により区画され、出入口の扉、窓等が密閉できる構造であること。
- (5) 洗浄消毒設備は、摂氏六十度以上の温湯及び摂氏八十三度以上の熱湯を供給することができる機能を有し、かつ、供給する温湯及び熱湯の温度を確認できる温度計を備えること。

カ 自動車において生体又はとたいを処理する場合にあっては、次に掲げる要件を満たすこと。

- (1) 処理室は、他の作業場所から隔壁により区画され、出入口の扉、窓等が密閉できる構造であること。
- (2) 計画処理頭数(一の施設において、あらかじめ処理することが定められた頭数を

いう。)に応じ、食品衛生法施行規則(昭和二十三年厚生省令第二十三号)別表第十七第四イに掲げる事項を満たす水を十分に供給する機能を備える貯水設備を有すること。なお、シカ又はイノシシを処理する場合は、成獣一頭当たり約百リットルの水を供給することができる貯水設備を有すること。

(3) 次に掲げる要件を満たす排水の貯留設備を有すること。

(ア) 不浸透性の材料で作られていること。

(イ) 汚液及び汚臭が漏れない構造であること。

(ウ) 蓋を備えていること。

(4) 車外において剥皮をする場合は、処理する場所を処理室の入口に隣接して有し、風雨、ほこり等外部環境によるとたいの汚染及び昆虫等の侵入を一時的に防止する設備を有すること。

キ 血液を加工する施設にあっては、次に掲げる要件を満たすこと。

(1) 運搬用具の洗浄及び殺菌並びに原材料となる血液の貯蔵及び処理をする室並びに冷蔵又は冷凍設備を有し、必要に応じて製品の包装をする室を有すること。ただし、採血から加工までが一貫して行われ、他の施設から原材料となる血液が運搬されない施設にあっては、運搬用具の洗浄及び殺菌をする室又は原材料となる血液の貯蔵をする室を有することを要しない。なお、各室又は設備は、作業区分に応じて区画されていること。

(2) 処理量の規模に応じた原材料貯留槽、分離機等を有すること。

(3) 原材料となる血液の受入設備から充填設備までの各設備がサニタリーパイプで接続されていること。

十 令第三十五条第十号に規定する食品の放射線照射業

ア 専用の照射室を有すること。

イ 適切な照射線量を正確に調整できるベルトコンベア及び照射設備を有すること。

ウ 照射線量を正確に測定できる化学線量計を備えること。

十一 令第三十五条第十一号に規定する菓子製造業

ア 原材料の保管及び前処理並びに製品の製造、包装及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 原材料の前処理及び製品の製造をする室又は場所は、製造をする品目に応じて、解凍、調整、調合、整形、発酵、加熱、殺菌、放冷及び冷却に必要な設備を備えること。

ウ 原材料及び製品の保管をする室又は場所は、必要に応じて冷蔵又は冷凍設備を有すること。

エ シアン化合物を含有する豆類を原材料として生あんの製造をする場合は、浸漬、蒸煮、製あん及び水さらしに必要な設備を有すること。

十二 令第三十五条第十二号に規定するアイスクリーム類製造業

ア 原材料の保管及び調合並びに製品の製造及び保管をする室又は場所並びに生乳の貯蔵設備及び受入検査設備を有すること。ただし、生乳を使用しない施設にあつては生乳の貯蔵設備を、検査を外部に委託する施設にあつては受入検査設備を有することを要しない。なお、室を場所とする場合にあつては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 製品の製造をする室又は場所は、ろ過、殺菌、冷却、充填、包装及び凍結に必要な設備を有すること。

十三 令第三十五条第十三号に規定する乳製品製造業

ア 原材料の保管及び調合並びに製品の製造及び保管をする室又は場所並びに生乳の貯蔵設備及び受入検査設備を有すること。ただし、生乳を使用しない施設にあつては生乳の貯蔵設備を、検査を外部に委託する施設にあつては受入検査設備を有することを要しない。なお、室を場所とする場合にあつては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 製品の製造をする室又は場所は、ろ過、殺菌、冷却、充填及び包装に必要な設備を有し、必要に応じて発酵、濃縮、乾燥、乳化及び分離をするための設備を有すること。なお、生乳の殺菌をする場合は、自記温度計を付けた殺菌設備を有すること。

十四 令第三十五条第十四号に規定する清涼飲料水製造業

ア 原材料の保管及び調合並びに製品の製造をする室又は場所を有し、必要に応じて容器の洗浄及び製造又は組立をする設備を有すること。ただし、ミネラルウォーター類のみの製造をする施設にあつては、原材料の保管及び調合をする室又は場所を有することを要しない。なお、室を場所とする場合にあつては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 原材料の調合及び製品の製造をする室又は場所は、調合、充填、密封及び殺菌又は除菌に必要な設備を有すること。

十五 令第三十五条第十五号に規定する食肉製品製造業

ア 原材料の保管、前処理及び調合並びに製品の製造、包装及び保管をする室又は場所

を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 製品の製造をする室又は場所に、必要に応じて殺菌、乾燥、燻煙、塩漬、製品の中心部の温度の測定、冷却等をするための設備を有すること。

十六 令第三十五条第十六号に規定する水産製品製造業

ア 原材料の保管及び前処理並びに製品の製造及び保管をする室又は場所を有し、必要に応じて原材料の乾燥、洗浄及び解凍をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 原材料及び製品の保管をする室又は場所は、必要に応じて冷蔵又は冷凍設備を有すること。

ウ 原材料の前処理及び製品の製造をする室又は場所は、必要に応じて解凍、調合、加熱、殺菌、乾燥、燻煙、焙焼、脱水、冷却等をするための設備を有すること。

エ 生食用鮮魚介類を取り扱う場合は、生食用鮮魚介類の処理をするための専用の器具を備えること。

オ 魚肉練り製品の製造をする場合は、原材料の前処理及び製品の製造をする室又は場所に播漬及び殺菌(魚肉のすり身を製造する場合を除く。)に必要な設備を有すること。

カ かきの処理をする場合は、次に掲げる要件を満たすこと。

(1) 必要に応じて浄化設備を有すること。

(2) かきの前処理をする室又は場所は、殻付きかきの洗浄に必要な設備を有すること。

(3) かきの処理をする室又は場所は、むき身の処理、洗浄及び包装に必要な設備を有すること。

十七 令第三十五条第十七号に規定する氷雪製造業

製品の製造及び保管をする室を有し、必要に応じて製品の調整及び包装をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

十八 令第三十五条第十八号に規定する液卵製造業

ア 原材料の保管並びに製品の製造、包装及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 製品の製造をする室又は場所は、割卵、充填及び冷却に必要な設備を有し、必要に応じて洗卵、ろ過、加熱殺菌及び冷却に必要な設備を有すること。

ウ 製品が冷蔵保存を要する場合にあっては製品が摂氏八度以下となるよう、冷凍保存を要する場合にあっては製品が摂氏マイナス十五度以下となるよう管理することができる機能を備える冷蔵又は冷凍設備を有すること。

十九 令第三十五条第十九号に規定する食用油脂製造業

ア 原材料の保管設備並びに製品の製造及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 食用油脂の製造をする室又は場所は、精製、充填及び包装に必要な設備を有し、必要に応じて搾油及び調合に必要な設備を有すること。

ウ マーガリン又はショートニングの製造をする室又は場所は、充填及び包装に必要な設備を有し、必要に応じて練り合わせ、殺菌及び冷却に必要な設備並びに熟成室を有すること。

二十 令第三十五条第二十号に規定するみそ又はしょうゆ製造業

ア 製麹^{まぐ}、原材料の保管、前処理、仕込み及び熟成並びに製品の充填、包装及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 製品の充填及び包装をする室又は場所は、必要に応じて容器の洗浄及び製造又は組立をする設備を有すること。

ウ しょうゆの製造をする場合は、必要に応じて圧搾、火入れ、調合、ろ過及び圧搾製成に必要な設備を有すること。

エ みそ又はしょうゆを主原料とする食品の製造をする場合は、調合、ろ過、乾燥、加熱殺菌、充填及び密栓に必要な設備を有すること。

二十一 令第三十五条第二十一号に規定する酒類製造業

ア 製造をする品目に応じて、製麹、原材料の保管、前処理、仕込み及び熟成(蒸留及び圧搾を含む。)並びに製品の充填、包装及び保管をする室又は場所を有すること。

なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 製品の充填及び包装をする室又は場所は、必要に応じて容器の洗浄及び検瓶並びに製造又は組立をする設備を有すること。

ウ 製造をする品目に応じて、洗浄、浸漬、蒸きょう、製麹、糖化、煮沸、発酵、蒸留、圧搾、火入れ、調合、ろ過、充填及び密栓に必要な設備等を有すること。

二十二 令第三十五条第二十二号に規定する豆腐製造業

ア 原材料の保管及び前処理並びに製品の製造及び保管をする室又は場所を有するこ

と。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 製品の製造をする室又は場所は、殺菌及び冷却に必要な設備を有し、必要に応じて包装するための設備を有すること。

ウ 無菌充填豆腐の製造をする場合は、連続流動式の加熱殺菌機並びに充填及び密封に必要な設備を有すること。

エ 豆腐を主原料とする食品の製造をする場合は、必要に応じて冷凍、乾燥、油調等をするための設備を有すること。

二十三 令第三十五条第二十三号に規定する納豆製造業

ア 原材料の保管、前処理、発酵及び熟成並びに製品の製造及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 原材料の蒸煮、発酵及び冷却並びに製品の包装に必要な設備を有すること。

二十四 令第三十五条第二十四号に規定する麺類製造業

ア 原材料の保管及び前処理並びに製品の製造、包装及び保管をする室又は場所を有し、必要に応じて原材料及び製品の乾燥及び冷蔵又は冷凍をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 原材料の前処理及び製品の製造をする室又は場所は、製造をする品目に応じて、混練、成形、圧延、裁断、茹で、蒸し、油調及び冷却に必要な設備を有すること。

二十五 令第三十五条第二十五号に規定するそうざい製造業及び同条第二十六号に規定する複合型そうざい製造業

ア 原材料の保管及び前処理並びに製品の製造、包装及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

イ 製品の製造をする室又は場所は、製造をする品目に応じて、解凍、加熱、殺菌、放冷及び冷却に必要な設備を有すること。

ウ 原材料及び製品の保管をする室又は場所は、冷蔵又は冷凍設備を有すること。

二十六 令第三十五条第二十七号に規定する冷凍食品製造業及び同条第二十八号に規定する複合型冷凍食品製造業

ア 原材料の保管及び前処理並びに製品の製造、冷凍、包装及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。

- イ 原材料の保管をする室又は場所は、冷蔵又は冷凍設備を有すること。
- ウ 製品の製造をする室又は場所は、製造をする品目に応じて、加熱、殺菌、放冷及び冷却に必要な設備を有すること。
- エ 製品が摂氏マイナス十五度以下となるよう管理することができる機能を備える冷凍室及び保管室を有すること。

二十七 令第三十五条第二十九号に規定する漬物製造業

- ア 原材料の保管及び前処理並びに製品の製造、包装及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。
- イ 原材料の前処理及び製品の製造をする室又は場所は、必要に応じて洗浄、漬け込み、殺菌等をする設備を有すること。
- ウ 浅漬けの製造をする場合は、製品が摂氏十度以下となるよう管理することができる機能を備える冷蔵設備を有すること。

二十八 令第三十五条第三十号に規定する密封包装食品製造業

- ア 原材料の保管及び前処理又は調合並びに製品の製造及び保管をする室又は場所を有し、必要に応じて容器包装の洗浄設備を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。
- イ 原材料の保管をする室又は場所は、冷蔵又は冷凍設備を有すること。
- ウ 製品の製造をする室又は場所は、製造をする品目に応じて、解凍、加熱、充填、密封、殺菌及び冷却に必要な設備を有すること。

二十九 令第三十五条第三十一号に規定する食品の小分け業

- ア 原材料の保管及び加工並びに製品の包装及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。
- イ 原材料及び製品の保管をする室又は場所は、必要に応じて冷蔵又は冷凍設備を有すること。

三十 令第三十五条第三十二号に規定する添加物製造業

- ア 原材料の保管並びに製品の製造、小分け、包装及び保管をする室又は場所を有すること。なお、室を場所とする場合にあっては、作業区分に応じて区画されていること。
- イ 製品の製造をする室又は場所は、必要に応じて抽出、反応、混合、ろ過、し過、精製、濃縮等に必要な設備を有すること。
- ウ 添加物製剤の製造をする場合は、含有成分を均一にする機械設備を有すること。

エ 原材料又は製品の試験検査をするために必要な設備及び器具を有すること。ただし、試験検査のうち特殊な試験に必要な設備及び器具については、当該試験に必要な設備及び器具を有する他の機関を利用して自らの責任において当該試験をする場合であって、食品衛生上支障がないと認められるときは、この限りでない。

オ 添加物及び添加物以外の製品の製造をする施設は、添加物の製造に使用する機械器具が区画されていること。ただし、添加物及び添加物以外の製品を同一の工程で製造する場合であって、同一の機械器具を使用しても製造された添加物が法第十三条第一項の規定により定められた基準又は規格に適合するときは、この限りでない。

別表第三(第三条関係)

(令三条例三九・追加)

一 令第三十五条第一号に規定する飲食店営業、同条第三号に規定する食肉販売業、同条第九号に規定する食肉処理業、同条第二十六号に規定する複合型そうざい製造業及び同条第二十八号に規定する複合型冷凍食品製造業で生食用食肉の加工又は調理をする場合にあつては、次に掲げる要件を満たすこと。

ア 生食用食肉の加工又は調理をするための設備が他の設備と区分されていること。

イ 器具及び手指の洗浄及び消毒をするための専用の設備を有すること。

ウ 生食用食肉の加工又は調理をするための専用の機械器具を備えること。

エ 取り扱う生食用食肉が冷蔵保存を要する場合にあつては当該生食用食肉が摂氏四度以下となるよう、冷凍保存を要する場合にあつては当該生食用食肉が摂氏マイナス十五度以下となるよう管理することができる機能を備える冷蔵又は冷凍設備を有すること。

オ 生食用食肉の加工をする施設は、加工量に応じた加熱殺菌をするための設備を有すること。

二 令第三十五条第一号に規定する飲食店営業、同条第四号に規定する魚介類販売業、同条第十六号に規定する水産製品製造業、同条第二十六号に規定する複合型そうざい製造業及び同条第二十八号に規定する複合型冷凍食品製造業でふぐを処理する場合にあつては、次に掲げる要件を満たすこと。

ア 除去した卵巣、肝臓等の有毒な部位の保管をするため、施錠できる容器等を備えること。

イ ふぐの処理をするための専用の器具を備えること。

ウ ふぐを凍結する場合は、ふぐを摂氏マイナス十八度以下で急速に凍結できる機能を

備える冷凍設備を有すること。

附 則(平成一四年条例第三五号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則(平成一六年条例第二二号)

この条例は、平成十六年二月二十七日から施行する。

附 則(平成二一年条例第四一号)

この条例は、平成二十一年七月一日から施行する。ただし、第四条の改正規定は、公布の日から施行する。

附 則(平成二四年条例第四四号)

この条例は、平成二十四年四月一日から施行する。

附 則(平成二五年条例第五五号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成二十五年四月一日から施行する。

附 則(平成二七年条例第五七号)

この条例は、平成二十七年四月一日から施行する。

附 則(令和二年条例第四六号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、令和二年六月一日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日から起算して一年間は、食品衛生法等の一部を改正する法律(平成三十年法律第四十六号)附則第五条に規定する旧食品衛生法第五十条第二項の規定により定められた基準は、この条例による改正前の奈良県食品衛生法施行条例第三条に規定する基準とする。

(奈良県事務処理の特例に関する条例の一部改正)

- 3 奈良県事務処理の特例に関する条例(平成十二年三月奈良県条例第三十四号)の一部を次のように改正する。

〔次のよう〕略

附 則(令和三年条例第三九号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、令和三年六月一日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際現に食品衛生法等の一部を改正する法律(平成三十年法律第四十六号)第二条の規定による改正前の食品衛生法(昭和二十二年法律第二百三十三号。以下「旧法」という。)第五十二条第一項の許可を受けて食品衛生法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備及び経過措置に関する政令(令和元年政令第百二十三号)第一条の規定による改正前の食品衛生法施行令(昭和二十八年政令第百二十九号)第三十五条各号の営業を行う施設に係る第一条の規定による改正前の奈良県食品衛生法施行条例第三条に規定する基準については、当該許可の有効期間の満了の日までの間、なおその効力を有する。